黙想:灰の式後の土 曜日

黙想のテーマ:「純粋な心から生まれる施し」「聖マタイ、すべてを捨てて、人生を捧げる」「神を愛し、隣人を愛する」

純粋な心から生まれる施し

聖マタイ、すべてを捨てて、人生を 捧げる

神を愛し、隣人を愛する

灰の水曜日からの数日間、私たちは 神への回心を願い、その表明として の祈りと、それに伴う断食と施しが いかに大切かを考えました。預言者 イザヤが力説するのは、すべての犠 牲の源である心からの誠実さだけ が、他者への憐れみの業を通して、 目にも明らかな真の変化をもたらす ということです。「軛(くびき)を 負わすこと、指をさすこと/呪いの 言葉をはくことを/あなたの中から 取り去るなら/飢えている人に心を 配り/苦しめられている人の願いを 満たすなら/あなたの光は、闇の中 に輝き出で/あなたを包む闇は、真 届のようになる | (イザヤ58・9− 10)

だからこそ私たちは、自分が与えたいと思う助けではなく、相手が必要としている支援を提供できるような、内なる純粋さを神に求めます。 「主よ、あなたの道をお教えください。/わたしはあなたのまことの中 を歩みます」(詩編86·11)。ある時、聖ホセマリアはこう嘆き与えるした。「施しとは小銭や古着を与えるだいる人がいる人がいるがいるだ。福音書を読まなかったる捧まない。です。家族や職場の人々、自分けれます。家族や職場の人々、自分けれます。なが私たちの施しているのです。

「福音書全体は、ただ一つの愛のおとに集約できるのではありののませますのではありの召ったちいら、四旬節のおもの召ったちります。これではない。からなります。これではない。ない、一人のとりの可能性と状況に応い、一人のとりの可能性と状況に応い、一人のとりの可能性と状況に応いる。

じてさまざまな形の施しを促すのも 愛なのです | [2]。

福音書に記されている聖マタイの召

命の物語を読むと、ファリサイ派の 人々や律法学者たちの注意を引きつ けたことが連想されます。後に使徒 となる彼の仕事は、ある意味で民衆 のしきたりよりもローマから付与さ れた小さいながらも個人的な権限を 優先させることであり、それは神の 法よりも物質的財貨に執着すること でもありました。しかしマタイは、 イエスの中に何か違うものを見つけ ました。彼はすべてを捨て去ってで も、イエスの足跡に従うに値する何 かを見たのです。だからこそ彼は、 自分が選んだライフスタイルを捨 て、社会的地位が与えてくれた安定 や福利、将来のさらなる向上への自 分なりの計画を放棄したのです。そ

してその決断ゆえに彼は大喜びで「イエスのために盛大な宴会を催した」(ルカ5・29)のです。

イエスは使徒たちを、律法の教師たちや律法を順守する信仰者たちの中から探したようには見えません。それどころか、当時のユダヤ人社会から罪人とみなされていた者の食卓に自ら近づかれました。ここに神のいつくしみの神秘が再び現れます。

「福音書は、真の意味での逆説そのものをわたしたちに示します。すなわち、聖性から最も遠く離れてつるように思われる人こそ、神のいつさしみを受け入れる模範となることができるということです。神のこさがしみは、自分の生活に引き起こされる驚くべき結果を、人に垣間見させるからです」[3]。

マタイと同じように私たちも呼ばれています。「いつくしみの道具となれるようにいつくしみをもって生き

聖マタイが自らの召命について述べている次のくだりは、ファリサイ派の人々に言及したイエスの言葉です。「『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい」(マタイ9・13、ホセア6・6参

この四旬節に行う施しのひとつは、自分がどのような愛を持って行なって行なってれまうな変を持ってれまり直すことかもは、カラエルの民の戒律を見いれるのとしば、神のですのとしばしば、真のとしばしば、真のとしばしば、真のとしばしば、前にもというないました。この四旬だは、キュストを私たちの生活の中心に据え

たいという願いをさらに強める機会 になりえます。聖ホセマリアはこの ように指摘しました。「きっぱりと 主に従う決心をしなければなりませ ん。主が私たちをご自分のために道 具としてお使いになることができる ように、つまり、世界中のあらゆる ところで、神のうちに留まりなが ら、塩となり、パン種となり、光と なるために。こうして、神のうちに 身を置くあなたは、周囲を照らし、 味を与え、成長させ、発酵させるこ とができるようになります。しか し、私たちは光ではなく、単に光を 反射するだけだということを、決し て忘れないでください!เฮこもし私 たちが聖母マリアに、自分の心を神 に向け直したいという最も深い意向 を示すなら、マリア様はそれを実行 できるように神に執り成してくださ るでしょう。

- [1] 聖ホセマリア『拓』26。
- [2] ベネディクト十六世、2008年四旬節メッセージ、2007年10月30日。
- [3] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2006年8月30日。
- [4] フランシスコ、一般謁見演説、 2016年9月14日。
- [5] ベネディクト十六世、「お告げ の祈り」のことば、2008年6月8日。
- [6] 聖ホセマリア『神の朋友』250 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-shijyunsetsu-hainoshikigo-doyou/ (2025/12/17)